

「第2回相馬地方ふれあい親交会・輪投げ大会」が草野小学校体育館で開催され、参加者らが軽スポーツで楽しく交流しました。

「相馬地方ふれあい親交会」は、飯館村と新地町、南相馬市鹿島区・小高区の4地域の老人クラブで構成しています。以前は相馬郡老人クラブとして、4町村で交流事業を実施してきましたが、南相馬市の誕生により相馬郡の町村は飯館村と新地町のみになりました。

しかし、引き続き4地域の老人クラブの交流を続けようと、「相馬

投てきに一喜一憂



▲輪投げ大会のようす

地方ふれあい親交会」に名称を変え、毎年会場を持ち回りで輪投げやグラウンドゴルフ、ゲートボールを開催しています。

今大会には、4地域から20チーム、約120人が参加。本村からは八木沢・芦原、大倉、宮内、飯樋町、関根・松塚の5チームが出場しました。

大会では、はじめに開会式が行われ、大会会長で村老人クラブ連合会の大東正男会長が「仲良く楽しく競技し、交流を深めてください」とあいさつした後、来賓の菅野村長と北原村議会議長から祝辞が述べられました。続いて、選手を代表して丹野嘉明さん（飯樋町）が選手宣誓をしました。

開会式後、早速競技が開始され、各チーム5人の選手が9本の輪を3回ずつ投てきし、輪が入ったピンの合計得点で順位を競いました。



▲選手宣誓をする丹野さん

今年秋の褒章で、消防功労として藍綬褒章を受章した村消防団の荒利喜団長が役場を訪れ、菅野村長に受章の報告をしました。

消防関係の藍綬褒章は、団員として永年にわたり消防防災活動に努力し、消防発展に寄与した方へ贈られるもので、今年は今国で62人が受章しました。荒利喜団長は昭和48年に入団して以降、第2分団長や副団長を経て、昨年4月から団長を務めています。

荒利喜団長は「今回の受章は村や消防団、地域の皆さんのご支援・ご協力、そしてご指導をいただいた先輩方のおかげ。今回の受賞を契機に、今後も安心して暮らせる地域づくりに精進したい」と受章の感想を話していました。

受賞の喜びを報告



▲写真左から菅野村長、菅野治副団長、荒利喜団長、本間英世飯館分署長

11/13

第2回相馬地方ふれあい親交会「輪投げ大会」

みんなのひろば

ここはみなさんが主役のひろばです。
身近な話題をどんどんお寄せください。

■役場総務課 TEL42-1613



この追悼式は、村出身の戦没者278人を追悼し、恒久平和を祈るため、村が3年毎に主催しています。

村関係者をはじめ、遺族会や英霊にこたえる会、軍連盟飯館支部、遺児の会など約120人が出席した追

「飯館村戦没者追悼式」が飯樋町の柔剣道場でしめやかに行われ、出席者が戦没者のめい福を祈りました。



▲追悼式のようす

戦没者追悼式

悼式では、出席者らが黙とうや献花をして、戦没者のめい福を祈り、恒久平和を誓いました。

戦没者慰霊祭

追悼式後には、同会場で行われた村遺族会（赤石沢備会長）と村英霊にこたえる会（佐藤長平会長）による「飯館村戦没者慰霊祭」も執り行われ、出席者らが神事や仏事などを行い、先の戦争で命を落とした故人らのめい福を祈りました。



▲慰霊祭での玉串奉奠のようす

11/25

華やかに27演目を披露

会場には多くの観客らが訪れ、演目が終わるごとに大きな拍手をおくっていました。

今年の発表会には、民謡会や琴の会、コーラス、舞踊、太鼓、フラクラブなど9団体が出演。3時間以上にわたって計27演目を発表しました。



▲日本一の歌声を披露する杉岡さん

第23回芸能発表会

第23回 飯館村芸能大会



▲大正琴の演奏を披露するどんぐり琴の会

杉岡茂さんが日本一の歌声を披露

10月に東京都で開催された日本民謡協会の全国大会（民謡壮年の部）で見事優勝した杉岡茂さん（草野）が、芸能発表会で日本一の歌声を披露しました。

杉岡さんは全国大会での「相馬長持唄」と会場からのアンコールにこたえ「相馬流れ山」も披露。会場から大きな祝福の拍手を受けていました。



誕生おめでとう

赤ちゃんのなまえ	親の氏名	行政区
菅野 唯斗くん	智之・信子	大久保・外内
菅野 奎斗くん	智之・信子	大久保・外内
高橋 聖人くん	務・由香	飯 樋 町
菅野 祥汰くん	英行・優	佐 須 内
川里 千咲くん	崇・愛美	宮 内 宮
大谷 夢翔くん	竜久・香代子	小 宮
佐藤 蘭くん	淳・かおり	大久保・外内

結婚おめでとう

氏 名	行政区
齋藤 正寛	深 谷
佐藤 裕子	伊 達 市

いつまでもお幸せに

おくやみ

氏 名	年 齢	行政区
渡 邊 ハ ル	90	伊丹沢 (前田・八木)
佐 藤 裕	87	伊 丹 沢
坂 本 傳	86	草 野
佐 藤 亀 松	83	上 飯 樋
佐 藤 好	83	関根・松塚
菅 野 年	80	比 曾
菅 野 市 治	99	比 曾

ご冥福をお祈り申し上げます

(10月21日から11月20日までに届け出のあったものを掲載)
※この欄に掲載を希望しない方は、届け出のときに住民係へ申し出てください。

ひとのうごき

(平成19年11月1日現在)

人 口	今 月 (前月比)	昨年同期
男	3195人 (-1人)	3263人
女	3243人 (-1人)	32980人
計	6438人 (-2人)	6561人
世帯数	1723戸 (-2戸)	1745戸

◆◆◆ 10月1日～31日までの人口動態 ◆◆◆			
転入	11人	転出	13人
出生	7人	死亡	7人

(平成17年国勢調査に基づき増減された現住人口)

今年は遊具のペンキ塗り

10/16

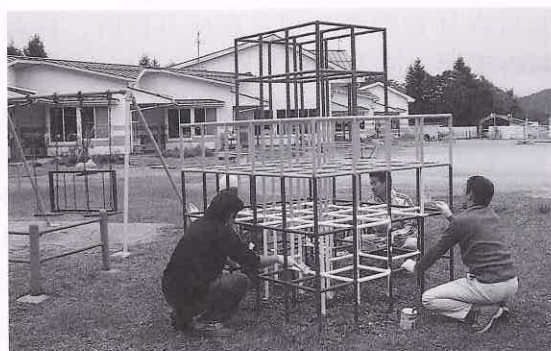
商工会青年部

地域美化活動

商工会青年部(大井利裕部長)による地域美化活動が行われ、参加した部員ら5人が幼稚園にある遊具のペンキ塗りを行いました。

この活動は、同青年部の年間事業の一つとして毎年実施しているものです。近年は、学校敷地内の草刈りや学校施設の修繕などを実施してきました。

今年は、部員が幼稚園へ出向き、それぞれの園庭にあるジャンゲルジムや鉄棒、ブランコなどの遊具にはけを使い赤や黄・白色のペンキを塗り上げました。



▲遊具にペンキを塗る部員ら

大井部長は「これからも子どもたちに喜んでもらえる活動を続けていきたい」と話しています。



▲買い物客に安全運転を呼びかける会員ら

買い物客に安全運転を呼びかけ

10/15

県下一斉街頭活動

「秋の交通安全運動」に合わせ、村交通安全母の会(小林洋子会長)では、「県下一斉街頭活動」を実施しました。

この活動は、県民に対して交通安全意識と母の会活動の普及を図ることを目的に、県内市町村の交通安全母の会が一斉に実施したものです。

この日は、会員らがAコープ飯館店の前に立ち、来店した買い物客らにチラシやティッシュ、交通安全啓発グッズを配り、交通安全を呼びかけました。

頂上から太平洋を眺望

10/21

いきいきクラブ野手上山登山



▲登山道を歩く参加者ら

いいたていきいきクラブ(庄司和明会長)主催の「うつくしま百名山・野手上山登山」が行われ、参加者らが色彩鮮やかな紅葉の野手上山を登りました。

この登山は、同クラブと村が今年度から進めている村民の健康づくり事業の一つとして実施したもので、各種事業や教室に参加するとポイントが貯まる「まめでたっしやに健康づくりポイントラリー」の対象事業にもなっています。

秋晴れのこの日、爽やかな青空に木々の紅葉が一層映え、また、山頂の展望台からは太平洋がはつきり見えるなど、参加者らは美しい景色を眺めながら、登山を楽しんでいました。

ぽけっとのこころ

村民の心、再発見塾でした

飯館村と隣町かさんのお付き合いは、もう7年になります。まだかさんは日本の俳句界に新境地を開きながら、一方で「日本の良さや素晴らしさをも、一度見直す必要があるのでは」と多くの著書と共に関心「日本再発見塾」なるものを毎年開いています。第3回目の「再発見塾」は、わが飯館村でした。

「なぜ飯館村?」ですが、これまでの長いながらもありますが、私たちが進めている「までいライフ」が、これからの日本にとっても大切な考え方であり、「再発見」にふさわしいあり方・動き方ではないかということから選ばれたのです。

全国から100人以上の方が集まる大会ゆえ、村にとっては対外的な事業としては、かつてない大事業でありました。

「までい」をただ村外に発信するだけに終わらず、村にとっても村民にとっても「やって良かった」という事業にするため、周到な準備が必要でした。また、村民の方々の係わり合いが成功・不成功のカギでもありました。2日間の中で、事業の要になっていく村民の方や、90人程の民泊を引き受けてくださった方々、そして事務局として活躍していただいた東京の事務局や慶應大学・福島大学の学生さんなど、総勢370人程が関わり合った実に内容の濃い、村にとっては「やって良かった」の「再発見塾」となりました。

そのことは、参加した方のアンケートが如実に物語っています。ア

ンケートを書いていた全員から「良かった(30%)」「大変良かった(70%)」との回答の中で、「高齢の方を大切に、古き良き頃の日本の家族の中に仲間入りさせていただき、まるで前日まで全く未知な人間とは思えない程の忘れられない思い出となりました」「これ以上の塾はないと思います」「地元のお年寄りの話は実に色んなことを考えさせられました」「今の日本が抱えている問題を考える上で、たくさんの方のヒントをいただきました」「までいな食事、までいの心、たくさんいただきました」「企画のユニークさが際立っていました」「イベント会社を使わずにボランティアスタッフだけでよくこんな上手な運営が出来るのかと感心させられ、すごいと思った」などなど、全員が再発見した「までい」への感動の心を記してくれました。

また、民泊についても素晴らしい感想の言葉が書かれていました。「とてもとても温かいもてなしを受け感謝しました」「一家総出で歓迎してくださり、旅館に泊まるとは味わえない味がありました」「民泊は地元の方々とまでい交流の場となり、とても良い思い出となりました」「皆さん温かく親切で、実家に帰った気持ちでした」「身も心も温まる一時でした。定年後は飯館村に住んでみたいになりました。これからは民泊された方の声ですが、東京の事務局からも「民泊にこんなに素晴らしい感想を全員からもらえるなんて、とても信じられない」「飯館村の人は素晴らしい、飯館村でやってくれた」との話をいただきました。

村長としての私の名刺には「住む人の心が、村の顔です」と書いてありますが、「村の顔は観光地でも建物でも役場でもなく、村に住んでいる人の心が村の最高の資源であり、宝物ですよ」と言いたい訳です。私の理想以上に村民の方が、もうすでに「実践しているんだ」と改めて村民の素晴らしいことに感謝し、心からの感謝をさげた「日本再発見塾」でした。

平成19年11月26日

飯館村長 菅野 典雄